

※「便器・給水器具」「便座」「付属品」が別梱包になっています

工事をされる方へ

工事を始める前に、この「工事説明書」をよくお読みのうえ正しく据え付けてください。工事完了後、この「工事説明書」は「取扱説明書」と一緒に必ずお客様にお渡しください。

警告

⚠ **警告**
工事や移動は、それぞれ専門業者が行う
施工不備があると感電・漏電や火災、事故などのおそれがあります。

⚠ **水場使用禁止**
浴室など湿気が多い場所に設置しない
浴室等、湿度が高く水がかかる場所には設置しないでください。
火災や感電のおそれがあります。

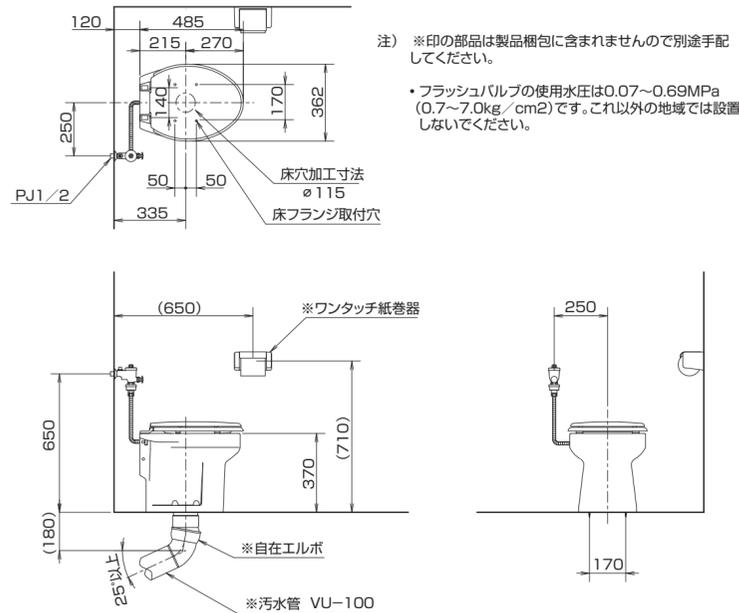
注意

⚠ **必ず便槽に接続すること**
このトイレは必ず便槽に接続してください。また、便槽の要領は500リットル以上のものをお使いください。
※4人家族を標準とした場合、500リットル未満だと汲み取り周期が1カ月未満になることがあります。

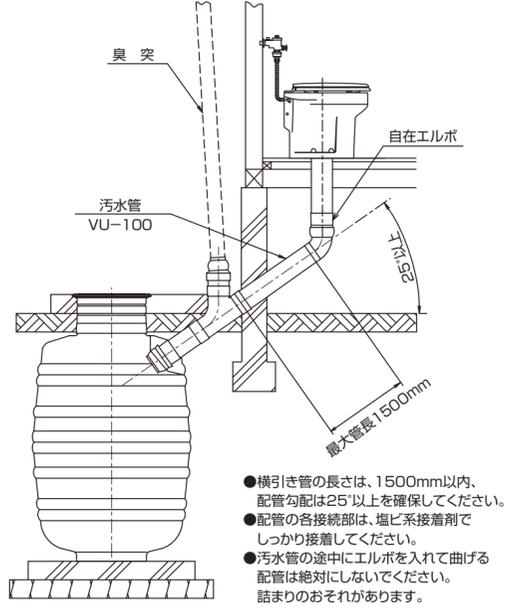
⚠ **凍結予防を必ず行う**
凍結のおそれがある地域では、凍結防止工事を行ってください。

2 施工図

施工寸法図



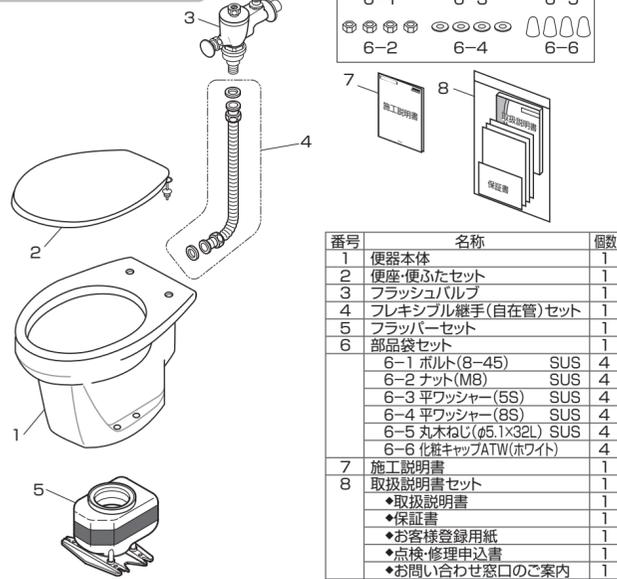
配管要領図



1 開梱

■施工する前に梱包を開いて、次の部品があることを確認してください。

例：ATW-709
タイプなし（普通便座）



Gタイプ

洗浄ガンが付属されています(別梱包)

Hタイプ

2「便座・便ふたセット」が暖房便座です(別梱包)

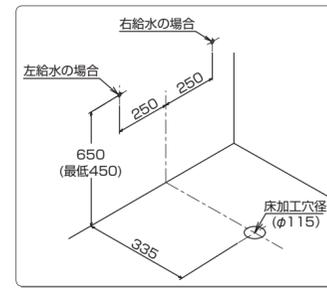
3 施工手順

警告

⚠ **警告**
工事や移動は、それぞれ専門業者が行ってください
施工不備があると感電・漏電や火災、事故などのおそれがあります。

【1】便器据え付け位置

- 標準施工図を基準にして、便器の据え付け位置を決めてください。
- 汚水管（VU100）を右図の寸法位置に床面より立ち上げてください。
- 給水配管を壁面より取り出してください。

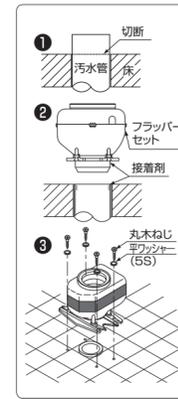


お知らせ

- フレキシブル継手（自在管）の長さは600mmです。
- フラッシュバルブの取り付け位置を便器の中心に寄せすぎると、便ふたが当たったり便ふたに隠れて操作がしにくくなります。
- 暖房便座（Hタイプ）の場合は、電源コンセントが必要です。電源コード（長さ1.2m）が届く場所に設置してください。

【2】汚水管との接続

- 床下より立ち上げた汚水管を床面で切断します。
- フラッパーセットの床フランジ接合部と汚水管の内部に接着剤（塩ビ系接着剤）を塗り、床フランジの接合部を差し込んで接着します。
※このとき、フラッパーセットの向きに注意してください。フラッパーセットには前後の向きがあります。フラッパーの上ぶたに「壁側」と刻印してあるので、向きを合わせて取り付けてください。
- フラッパーセットの床フランジを、丸木ねじと平ワッシャー（5S）で床に固定します。
※床がタイル張り場合は、別途カールプラグを用意して固定してください。

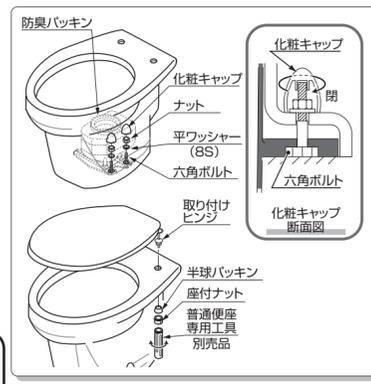


お願い

- 直下便槽のように汚水管が不要な場合にも、短い汚水管（長さ10cm以上）をフラッパーセットに装着して排出部を構成してください。汚水管を全く使用せずに施工すると、排出された水が床に回るおそれがあります。

【3】便器の組み立て・据え付け

- 床フランジに六角ボルト（4本）を差し込みます。
- 便器を乗せて、六角ボルト・平ワッシャー（8S）・ナットで締め付け固定します。
※このとき、防臭パッキンがずれないように注意してください。
- 化粧キャップをねじ込み、固定します。
- 便座を組み立てて、便器本体に取り付けます。
※便座の組み立ては、それぞれの便座の取扱説明書を参照してください。



お願い

- 便器が動かないように取り付けてください。

【4】洗浄ガンの取り付け 洗浄ガン付き（Gタイプ）

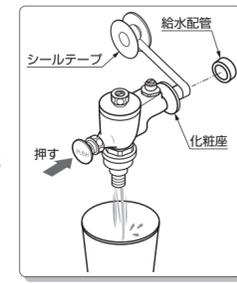
■洗浄ガン付き（Gタイプ）の場合は、フラッシュバルブを壁に取り付ける前に洗浄ガンを取り付けてください。詳しくは、洗浄ガンの取扱説明書を参照してください。

- バキュームブレーカーとストレーナを外します。
- ストレーナ網を外し、接続ニップルに取り付けます。
※ストレーナキャップは、保管しておいてください。
- ストレーナ取り付け部に接続ニップルを取り付けます。
- 接続ニップルに洗浄ガン袋ナットを接続します。
- ①で外したバキュームブレーカーを取り付けます。



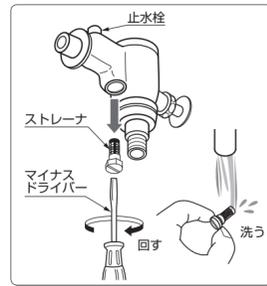
【5】給水器具の取り付け

- 化粧座をフラッシュバルブのねじの根元まで回し込みます。
- フラッシュバルブのねじにシールテープを巻き、給水配管にねじ込みます。
※緩みのないようにしっかりねじ込んでください。
- 化粧座を壁側に戻します。
- 押しボタンを押して、図のように水が出ること、接続部に水漏れがないことを確認します。



【6】ストレーナの掃除

- 止水栓を閉めます。
- マイナスドライバーを回して、ストレーナを取り出します。
- ストレーナを水洗いし、ごみを取り除きます。
- ストレーナを元の位置に取り付け、止水栓を開けます。



【7】配管接続

- フラッシュバルブにフレキシブル継手（自在管）を接続します。
※フレキシブル継手（自在管）に同梱のパッキンを入れてください。
※バキュームブレーカーのねじ部をスパナなどで固定して、フレキシブル継手（自在管）の袋ナットを締めつけてください。
締めすぎると、バキュームブレーカー内部の樹脂部が破損するおそれがあります。
- フレキシブル継手（自在管）のもう一方を便器後側のノズル接続部に接続します。
※フレキシブル継手（自在管）に同梱のパッキンを入れてください。
- 押しボタンを押して、接続部に水漏れがないことを確認します。

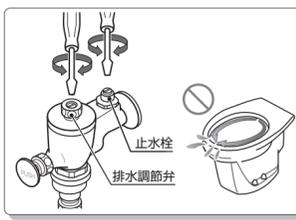


お願い

- 寒冷地では、室内暖房などの凍結予防を別途実施してください。

【8】フラッシュバルブの調節

- 止水栓を閉めます。
- 排水量調節弁を全閉し、2回転開けます（左に回します）。
- 押しボタンを押しながら止水栓を開け、ノズルから出た水が内ボールの両サイドまで広がるように、止水栓を調節します。
※ノズルから出た水が反対側でぶつかり飛び散るときは、止水栓を開けて水の勢いを弱くしてください。
水道圧が高い地域では、止水栓の開きを少なくする必要があります。
- 排水量調節弁で水の量を調節します。
※便器の排出部に丸めたトイレットペーパーを置いて、確実に排出できるように調節してください。
押しボタンを押してすぐに離れたときにトイレットペーパーを排出できない → 排水量調節弁を開く
トイレットペーパーを排出したあとも水が流れ続ける → 排水量調節弁を閉める



4 施工後の点検項目

- 以下の手順で、給水・排水ができることを確認してください。また、通水試験を行い、水漏れがないことを確認してください。
- 工事が完了したら、お客様と一緒に必ず試運転をしてください。

【1】通水試験

- 便器の排出口より約10リットルの水を流し、汚水管各部の接続箇所から水漏れがないことを確認してください。
- フラッシュバルブの各部、配管各部の接続箇所から水漏れがないことを確認してください。

【2】試運転

- フラッシュバルブの押しボタンを押して、洗浄・止水が正常に動作することを確認してください。
- 洗浄状態が正常であることを確認してください。